

新水産海洋調査船M/S“La Salle”

誌名	水産海洋研究会報
ISSN	03889149
巻/号	9号
掲載ページ	p. 178
発行年月	1966年9月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



86m長×幅14.8m×深さ7.3m、吃水5.5m、総トン数3,200トン、乗組定数87（研究員32を含む）。主機電気推進式1160HP×4基、二軸推進。マリナ型舵2基、最大速度15ノット。航海速度12ノット、航続距離2万8000Km 9研究室（気象、採水测温、海洋動植物、化学一般、生産力測定、海洋微生物、塩分調査及化学研究室、標本調査総合研究室、定温水槽、ホルマリン室、電子計算機室、重力等計測室）。

ウインチ10台（1万5,000m最深海用、6000m中深海用、2000m、1000m、小深海用観測）。観測用15トンクレーン、長さ13m、強化プラスチック製観測艇、船首より10mのアルミ製ビームで気温、風速、湿度等気象観測、船底に設けた穴にとりつけ海底をボーリングする機械、極深海用音響測深機、アンチローリングタンク、サイドスラスタ、振動騒音防止装置等。新船名は公募中。昭38年建造現在活動中の淡青丸（257トン）に加え、世界的の大観測活動計画が期待されている。

10 新水産海洋調査船M/S "La Salle"

この船は1965年11月ノルエー国ベルゲンAukraで建造せられ、ヴェネズエラ国（船主）に引渡しせられ、カリブ海方面で活動、海洋研究、トロール、旋網延縄など試験漁業と漁撈長訓練に当たっている。船長129' 7"、幅31' 2"、深13' 6" 吃水11'、ロイド級+100A1"トローラー"型。432トン（重量250トン）、24人室（エアコンデション）図書室、研究室（気象学、化学、生物学、物理学、騒音防止、各室ガス、圧さく空気設備）、冷蔵、冷凍室、主機800HP、Caterpillar D398、Liaaen 可変ピッチプロペラ及びリダクション・ギアと連動、船橋リモートコントロール。常船速11.5ノット、燃油100トン（1ヶ月海上）、2補機Caterpillar 110HP×2、85KVA発電機、淡水発電機に直結、機器と排気管は弾性吊下（騒音と振動防止）、冷蔵魚槽5500立方フィート、旋網水力ウインチABAS、水カトリールウインチ12トン、2水力観測ウインチ、水力でトロールガントリ操作、水力操舵、自動ラインホーラー、活魚海水槽、2音響測深機ソナー、ラジオテレフォン100W、無線方向探知機、レーダー、オートパイロット風速計、自記水温計、自記気圧計、自記気温計、等が研究設備、装置の主なるものである。

11 東京水産大学青鷹丸の水中観測筒

昭和41年1月29日進水（三保造船所）した本船は低船首楼甲板をもつ船尾トロール型で、ひき網、はえなわ、棒受網、一本釣など漁業実習とフィールド実験船として活動をはじめた。全長33.8m、幅7m、深さ3.5m、喫水2.8m、総トン数216.78、航海速度10.5ノット、航続6300マイル、乗組47名（学生26名）、主機ディーゼル610馬力可変ピッチプロペラ1、補機ディーゼル100PS2基、リモコン（船橋、機関監視室各1）、電動油圧舵取装置1、ジャイロコンパス1、トロールウインチ（TSK）3000m用1、無線（250Wほか）、冷暖房